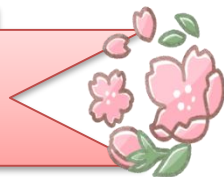




看護部通信

#HOSPY

第62号 2026.4.1 発行
HOSPYグループ腎透析事業部看護部



新生会第一病院 看護部長 片村幸代

今年も新しい仲間を迎えて新年度が始まりました。診療報酬改定、物価高騰、生産年齢人口の減少に向かい、地域社会の姿は変化していきます。私たちの看護部は理念であるその人らしく生きられるよう支援する看護を大切にするとともに、社会の変化に挑戦し発展させていきたいと考えます。心身ともに健康管理をして、専門職として働き甲斐を持ちつつ、目標達成のため、各施設・部署、個人での取り組みを期待しています。

2026年度看護部目標

ビジョン: その人らしく生きられるよう支える看護の実践を原点とし、社会環境の変化に挑戦する看護部

	大目標	中目標
顧客	看護実践の見える化と振り返り	①透析患者のフレイル対策と健康寿命の延伸 ②高齢透析患者の生活機能を踏まえた支援の充実 ③意思決定支援と多職種連携の実践強化 ④緩和ケア、認知症ケア、家族看護、サイコネフロロジー看護の充実 ⑤地域連携(施設・在宅・家族)強化
内部プロセス	安全と効率化のための看護業務の見直し	①業務改善とマニュアル整備 ②感染対策、転倒転落防止、災害対策、身体拘束最小化への取り組み ③認定看護師との情報共有と充実
学習と成長	越境的な対話と学び・グループ連携	①ラダーを活用したキャリア支援 ②認定看護師と連携し、専門性を学び活用できる体制の醸成 ③心理的安全性を基盤としたグループ横断的な学習推進 ④地域・グループ内連携を実践できる人材育成
財務	健全経営の参画・職員の定着とグループ連携	①患者数の維持・確保 ②収益構造の安定化 ③人事確保(離職防止対策)における運営維持

東海クリニック 『東海ホスピー居宅』の紹介



担当者会議の様子



主なケアマネジャー業務

- ・事業所との連絡
- ・サービス調整
- ・情報収集
- ・サービス計画書作成
- ・給付管理等
- ・利用者宅訪問
- ・事業所連絡会議

透析室業務も兼務しています



最初は戸惑うことも多かったですが、利用者さん(通院患者さん)と関わるうちに、看護師の立場とは違う視点で患者さんについて考えることが増えたように感じています。生活者として、在宅で生活を継続しながら通院透析を継続するための支援について、その人に合った支援内容について日々検討を重ねています。今後も患者様が安心して通院透析が継続できるよう、支援してまいります。



一ノ瀬 未来さん 入職5年目
2025年ケアマネジャー資格取得

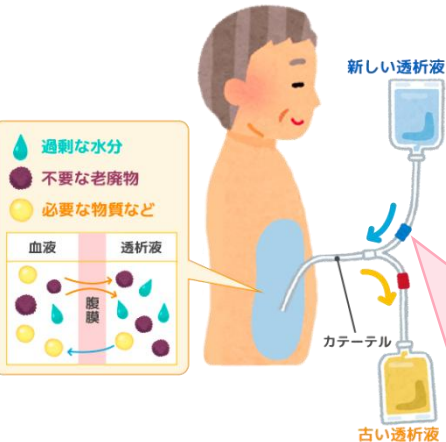


おうちで透析！？～在宅透析という選択肢～

透析治療には通院血液透析だけでなく、自宅で行う在宅透析（某CMではおうち透析といわれています）があります。在宅透析には腹膜透析（PD）と在宅血液透析（HHD）の2種類があり、新生会第一病院では28名の在宅透析患者さんが在籍され、生活に合わせた透析を実施されています。今回はそれぞれの治療について紹介します。

腹膜透析（PD）について

PDは患者さん自身の「腹膜」を半透膜として利用し、老廃物や過剰な水分を除去する治療法です。



手術で腹膜カテーテルを挿入します。カテーテルを介して腹腔内に透析液を注入（注液）、一定時間置き（貯留）、腹腔内の透析液を排出（排液）します。この注液-貯留-排液の一連の流れを「バッグ交換」といい、腎機能に合わせて1日数回行います。手動でバッグ交換を行うことをCAPDといい、就寝中に機械を使用して行うAPDもあります。PDは緩やかに透析をするため血圧変動が少なく残腎機能を保ちやすいことが特徴です。特有の合併症（腹膜炎、カテーテル出口部・トンネル感染など）に注意する必要があります。

在宅血液透析（HHD）について

HHDは病院やクリニックで行うHDを、自宅で患者と介助者で行う治療法です。

自宅に透析装置を設置して患者自身で操作を行います。透析の回数や時間を生活に合わせて調整できます。新生会第一病院では隔日（1日空き）・短時間頻回（3～4時間/週4～5回）・長時間（6～8時間程度）・オーバーナイト（就寝中にHDする）透析を展開しています。通院透析に比べ透析回数や時間が増えるため、生命予後が良いことが特徴です。操作の手伝いや緊急時の連絡の役目を担ってもらう介助者が必須となります。



看護師の役割

在宅透析は「通院中心の生活」から「生活に合わせた透析」を可能にする選択肢です。在宅透析にかかわる看護師は透析治療を「行う」看護から、患者さんを「支える」看護にシフトチェンジすることが特に必要です。導入前の意思決定支援や知識・手技指導、合併症予防の教育、治療に関する不安の軽減など、継続したフォローと相談対応を細やかに行うことが大切です。就労を継続したい、通院が難しい、生活の質を大切にしたい、自己管理意識が高いなどの患者さんにとって適した治療といえます。医療者不在の自宅で行う治療のため、教育訓練は必須となりますが、それを乗り越えて在宅透析に移行できた時、看護の醍醐味を味わうことができます。

患者さんが安心して療養生活を続ける選択肢の一つとして、みなさんも患者さんに情報提供してみませんか？

腎代替療法専門指導士 門嶋洋子・久田睦子

在宅医療室

メンバー

医師
看護師3名
理学療法士2名
医事課1名



主な仕事

患者の家での

- ・定期的な診察
- ・点滴、注射、褥瘡処置等の医療処置
- ・カテーテルや胃ろうの管理
- ・在宅酸素療法
- ・薬剤の管理
- ・リハビリテーション
- ・生活支援
- ・終末期ケア



緩和ケア認定看護師・摂食嚥下認定看護師の存在は大きい。医師と情報共有中

訪問エリア

天白区隣接区域

「自宅で最期まで過ごしたい」患者様達



訪問診療、訪問看護
訪問リハビリを利用



連携のメリット

カルテの共有

自宅での療養環境をイメージしやすくなる。

内服管理ができていないなど見えないところが見えてくる。

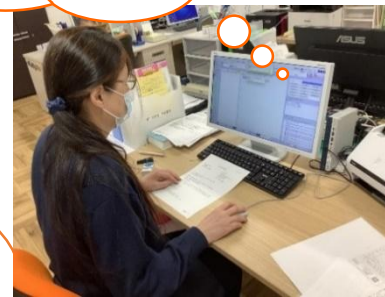
加算を落とさないよう
しっかり確認。

サテライト利用の患者様

在宅医療室へ電話連絡をお願いします。

受け入れ状況を確認後、診療情報提供書を在宅治療科主治医宛てに依頼してください。

受け入れ患者数によりますが、極力受けるように調整しています。下肢血流障害など主治医、訪問看護、リハビリと連携を図りながら対応しています。



問い合わせ先

新生会第一病院内
在宅医療室

Tel 052-846-3310

fax 052-846-7590

担当：天満 所 森本 富田

しかくの広場

今回はがん性疼痛看護認定看護師として活躍されている所千晶さんにインタビューをしました。

Q:がん性疼痛看護認定看護師とは？

まずはじめに、「がん性疼痛看護」は、症状緩和技術やがん性疼痛に対する薬剤の知識などを生かし、幅広く活動するため、非がん患者に対するケアの充実が必要なために2021年度から「緩和ケア」と名称が変更になりました。患者や家族ができるだけ苦痛が少なく、安心して療養生活を送るために、医師やその他の職種と連携していく役割があります。

- <主な役割>
- ①痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題のアセスメント
 - ②全人的問題を緩和し、QOLを向上するための症状マネジメント
 - ③家族の喪失や悲嘆への対応

Q:資格取得したきっかけは？

看護師として経験を積み、リーダーシップを取らなければならなくなった頃、がん患者が多くを占める病棟でがんの治療期から看取りまでを看護する病棟で勤務していました。当時の上司から、「がんの症状マネジメント」の研修参加を促され3日間の研修を受けてきました。

症状に対する薬物療法や非薬物療法にはすべて根拠があること、WHOがん疼痛治療法に衝撃を受けました。医療用麻薬を始めとした鎮痛剤の種類や薬効、副作用、非薬物療法の種類などの知識や技術の豊富さが患者さんやご家族の苦痛の緩和に繋がるのだと、とても大切なことに気付かされました。当時、「緩和ケア認定分野」は、ホスピスや緩和ケア病棟で活動する人が多かったこと、勤務病棟ががん患者が多かったこともあり、「がん性疼痛看護分野」を目指すことにしました。



Q:活動内容を教えてください

- 緩和ケアチームでの活動 カンファレンス1回/週、全体回診1回/週、院内ラウンド
 - 症状マネジメント、医療用麻薬の選択や投与経路の選択、オピオイドレスキューの使用法、PCA(患者自己調節鎮痛法)ポンプ等の医療機器の使用法や管理
 - 終末期鎮静に関することへの対応(薬剤の調整や効果判定、家族のケアなど)
 - 臨床倫理カンファレンスへの参加
 - デスカンファレンスへの参加
- HOSPYP オレンジチーム(認知症ケアチーム)との連携
 - 心理精神的苦痛やスピリチュアルペインがある患者の症状マネジメント
 - せん妄やBPSD症状の対応について検討
- 訪問診療での活動
 - 在宅で療養しているがん・非がん患者の緩和ケアを提供
 - 積極的なアドバンスケアプランニング
- 化粧療法の提供
 - 「いきいき美容教室」を企画し実施、スキンケアやストレッチを非薬物療法として取り入れています。



Q:看護師のみなさんへ

少しでも多くの引き出しを持って臨床現場に臨むと、自然に患者さんやご家族に寄り添える看護が提供できると思います。

「緩和ケア」は、2026年度の診療報酬改定で、末期腎不全患者さんが追加されます。これから期待される分野になります。新生会第一病院は体制を準備中です。緩和ケアで困っていることがありましたらご相談ください。



※診療報酬改定「腎代替療法診療体制充実加算」施設基準

緩和ケアを必要とする患者に対し、患者の症状に応じた適切な治療及びケアを提供できる体制が整備されていることが望ましい。なお、緩和ケアについては、「腎不全患者のための緩和ケアガイドンス」(日本緩和医療学会、日本腎臓学会、日本透析医学会)を参考にすること

CKDLN情報共有会

2025年11月4日(火)

資格支援やCKDLNの知識を広めることを目的とし、

CKDLN情報共有会を開催しました。

CKDLN資格者5名、CKDLN受験予定者や資格に興味がある8名が参加し

CKDLN有資格者の活動内容や受験対策について情報共有を行いました。

がんばれ!



受験対策

提出した事例の内容や苦勞した点や、

テスト対策のための勉強方法・期間などを有資格者から伝えて頂きました。

文献検索の方法について

～感染管理特定認定看護師山本主任よりアドバイス～

CKDLN情報交流会の中で文献検索についての質問がありました。

新生会第一病院感染管理特定認定看護師の山本主任にアドバイスを頂きましたので紹介します。

医中誌 <https://www.jamas.or.jp/>

CiNii(サイニイ、国立情報学研究所) <https://cir.nii.ac.jp/>

国立国会図書館 <https://www.ndl.go.jp/>



などのホームページから検索されているそうです。

また各大学の図書館の外部利用・公立図書館の紹介もありました。

(公立図書館においてある医学・看護系書籍は少なめだそうです)

その他、気になる本があれば

医書jp <https://store.isho.jp/>

で電子書籍を自費購入したり、電子書籍で発行されていないものについては書籍で購入して自己研鑽をつまれているそうです。

患者指導、スタッフ指導のヒントにつながる内容が見つかるかもしれません。

皆さんもぜひ参考にしてみてください。



情報共有会開催後アンケートの意見

「腎臓病患者の生活全体を支える看護の重要性を改めて感じた」

「試験も資格も難しそうだと感じたが、

勉強を楽しみながら知識を深めて行きたいと思った」

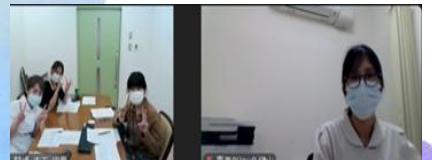
「受験のことについて具体的な内容を知ることができ、すごく有意義だった」

「今後もこのような機会を作り、サテライト全体で意欲向上を目指すことができたらいいなと思った」

今後に向けて

今回の情報共有会では参加者の皆さまの積極的な姿勢により、学びの深まる時間となりました。

今後もこのような機会を通じて、知識や経験の共有を促進していきたいと思えます。



資格取得者からのメッセージ

鳴海クリニック 池室香代子副主任

CKDLN の受験に向けて事例を書いていたのですが、まとめ方や考察の書き方に悩み、なかなか筆が進まない日々が続いていました。

そんな中、事例の書き方セミナーを受講した際に、学会開催時に相談コーナーがあることを知り、日本腎不全看護学会・研究委員会・編集委員会・認定委員会が企画する「事例の書き方相談コーナー」に参加しました。



相談コーナーでは、1対1で実際の事例を読んでいただき、文章構成や考察の進め方について、丁寧にアドバイスを受けることができました。時間の制限もないため、自分が納得するまで相談することができ、大きな助けとなりました。そのおかげで、事例を無事にまとめることができ、その後は上司にも確認していただき、仕上げることができました。

また、同じ場所では「研究・投稿なんでもお気軽相談コーナー」も開催されています。研究や投稿に関心のある方は、こちらにも参加してみると良いと思います。

しかく 取りました！

2025年度に2名の方が腎臓リハビリテーション指導士の資格を取得されました。おめでとうございます。

東海クリニック 立川 陽子さん

①資格取得目指した理由

東海クリニックで初めて腎臓リハビリテーションを実施した患者様が、受け持ち患者様でした。意欲的に腎リハ、自宅での運動、アフター腎リハを実施されている姿を見て、もっと力になれるよう私自身の知識を深めたいと思い、今回資格の取得をしました。

②資格取得に向けて頑張ったこと

過去に資格受験された方の話を参考にして、腎臓リハビリテーションのガイドラインや参考書を読みました。

③これからの抱負

当院のアフター腎リハも4年目に突入なるため、今後も運動を継続できるような関わりをしていきたいと思っています。



平針記念クリニック 清原 志穂さん



①資格取得をめざした理由

腎リハを行う中で患者から質問をされたときに、専門知識が必要と感じたためです。また、腎リハ学会で発表させていただく機会をいただき、資格取得条件を満たしたタイミングでもありました。

②資格取得に向けて頑張ったこと

今まで腎リハ指導士の資格を取得された先輩達から、試験に向けての情報共有会を開催していただきました。試験に向けてサポートしていただいたので、ポイントを絞って勉強することができました。

③これからの抱負

腎リハ指導士として、専門知識を深めて患者支援へ活かしていきたいです。また、運動することを楽しんでもらえるようスタッフと工夫して取り組んでいきたいです。